

## 将来の市浦村

豊島 好幸

(十三小・六年)



市浦村誕生三十周年、おめでとございませう。

市浦村が誕生して、また三十年よりたつていませんが、村の歴史は大変に古いといふことを先生から聞きました。その昔、十万人も住んでいたといふのだから、本当ににぎやかな都だったのではなしかう、現在は残念ながらいの人口四千百人くらいのみしい村です。僕の父は、シジミ貝を取って必死に生きています。その父も、この頃、シジミ貝が取れなくなつて将来の市浦村のことを真剣に考えるようになって来ました。

「この間、父に、「おつちや、又、このころ、シジミ貝とれなくなつてきたばつてどうするの。」と聞いてみました。すると父

は、「おめだばまだぞつたんだこと考えなくても、おつちや考えではんで気にするな。」と言いましたが、将来については、本当に心配そうな顔をしていました。

父に心配すると言われたけど、ふとんに入つてから考えてみました。なんとか昔のよな都にもどらないものか。このままであまりにもさみしい村です。よく考えてみると、昔は、貿易港として栄えたのですが、せつかく広い海がありながら、生かされていません。観光客相手もよいのですが、将来、村が大きく発展するには海の産業だと思ひます。

太平洋側に八戸港があります。日本海側に十三港というふうによかないものか。それもこれも、市浦村の村民全員が心を一つに合せて、血のにじむような努力を重ねるほかにないと思ひます。ほくも一生けんめい勉強して、将来の村のためにがんばります。

## 私のふるさと

花島 志津香

(十三小・六年)

私のふる里は、市浦村の十三湖です。

市浦には、六千年前ごろから人が住んでいたそうです。私は先生や母などから十三の昔は、すこ大きな都であつたことを聞き、ほこりに思ひました。しかし、大きな津波で、大きな都が小さな村に変わつてしまいました。私はそれを聞き悲しくなりました。

十三の小学校が開校したのは、明治六年でした。私はいかに早い年と思ひました。昭和三十四年、十三の橋が完成しました。この橋は木の橋で、さんぽなどするのはいいに早い年と思ひました。



昭和五十四年、今度はコンクリートの橋も、高くて景色がいいけれど、地しん

は続きます。おつちや、又、このころ、シジミ貝とれなくなつてきたばつてどうするの。」と聞いてみました。すると父



どに弱いそうです。ちよつとこれいようがゐります。でも自然な市浦が大好きです。よくをいえば、もつと人口がふえなくて、村もふえなくてくれればなあと思ひます。そうすれば、私の遊べるよな公園や、遊園地など、今までの市浦にないものが出来るのになあと思ひました。

十三では、中島という島に橋がかかり、島には水族館が出来たことを、この間聞きました。

私の夢が、やつと一つ実現されることになりました。早くできることを首を長くして待つています。

私の住んでいる十三は、シジミがとれるので、シジミ貝で生活しています。でも、少しでもシジミも海水が多いためには、たくさん死んでゐるそうです。

十三には海も川もあります。それに、橋からは、夕日が見えたりきれいな山などがみえたりします。

小さな村でも、自然があつて、これらも十三が大好きです。これからも、市浦のいい所を見つめながら、しっかりと勉強して行きたいと思ひます。

僕は、将来、市浦村をスポーツの盛んな村にしたい。現在を例にとつて見ると、スポーツは行われているもの、あまりいい成績をおさめていないようだ。「参加することに意義あり。」よく口にする言葉だが、参加したからには、少しでもいい成績を残したいという気持ちをはみんな同じだと思う。でも思うだけではだめである。練習だ、訓練だ、たしかに一日一日の積み重ね、でもそのつら一日の積み重ねが、試合で発揮されることによって、言葉にあらわれないの満足感を味わえると思ひます。いい結果へつながつていくと思ひます。さきに行われた陸奥湾一周駅伝を例にとつて見ると、僕たちの村は下から

## スポーツの盛んな村に

丁子谷 充

(市浦中・三年)



僕は、将来、市浦村をスポーツの盛んな村にしたい。現在を例にとつて見ると、スポーツは行われているもの、あまりいい成績をおさめていないようだ。「参加することに意義あり。」よく口にする言葉だが、参加したからには、少しでもいい成績を残したいという気持ちをはみんな同じだと思う。でも思うだけではだめである。練習だ、訓練だ、たしかに一日一日の積み重ね、でもそのつら一日の積み重ねが、試合で発揮されることによって、言葉にあらわれないの満足感を味わえると思ひます。いい結果へつながつていくと思ひます。さきに行われた陸奥湾一周駅伝を例にとつて見ると、僕たちの村は下から

二番目だった。ひじょうにがつかりしけど、選手のみなさんは、よくがんばつたと思う。こういう競技は個人競技とは違つて、一人が良くてもみんなが良くないといふ成績を残さないと思ひます。だから合宿や合同練習などをやつたらもっといい成績を残せたと思う。たしかに忙しいかも知れないけど、でもそういう中において、たまに道路で走つている人を見かけると、すがすがしい気持ちになれるのは僕ばかりじゃないと思ひます。とにかく、又、来年に期待したいものです。

最後にスポーツの盛んな村にするためには、これからもつと運動設備を増やしてもらひ、これを子供から老人までみんなが利用し、スポーツを理解し、エンジョイする。そしてスポーツを通して人と人とのふれあい、他町村との人との出逢いを大切に、互いに理解し合い、いい汗をかき、すばらしいと思ひます。

村のスポーツの発展のために一番大切ですが。僕も一村民として、村のスポーツの発展のため努力していきたいと思ひます。

僕は、将来、市浦村をスポーツの盛んな村にしたい。現在を例にとつて見ると、スポーツは行われているもの、あまりいい成績をおさめていないようだ。「参加することに意義あり。」よく口にする言葉だが、参加したからには、少しでもいい成績を残したいという気持ちをはみんな同じだと思う。でも思うだけではだめである。練習だ、訓練だ、たしかに一日一日の積み重ね、でもそのつら一日の積み重ねが、試合で発揮されることによって、言葉にあらわれないの満足感を味わえると思ひます。いい結果へつながつていくと思ひます。さきに行われた陸奥湾一周駅伝を例にとつて見ると、僕たちの村は下から

# 誇れる

## 村に

### 安保干城

(市浦中・三年)



市浦村は、大自然に囲まれ、そして大きな歴史を持つ素晴らしい村です。

小さい時に私は、村がとてつもない「東京はいいな」等と、いつも思っていました。華やかで、楽しそうに都会に憧れていたのです。しかし、小学校六年のあたりから市浦村の歴史を覚えることにより、その興味も薄れ、こちらの方に興味を持つようになったのです。

今から六十五ヶ年程前の鎌倉時代の我が村、十三湖一帯に、十万人以上の人々が住む幻の古都「十三湊」。そのへ一つ湊では、日本の七大陸の一つであった、日本、不思議で神秘的な事実があります。今の十三湖一帯は、見渡すか

ぎりの砂山と荒地が広がるだけで、昔の栄えた影は一つもありません。それでもその奥には、こんなに素晴らしい宝があるのです。

私は小学校六年の時、発掘調査で山王坊へきました。その時地跡を見て、何とも言えない感動を覚えました。昔の人は、こんなうとして暮らしていたのかな？ あそこまで、あして暮らしたののかな？と、たぐさんの疑問や昔の人の暮らしが私の脳裏をかきめぐりました。そして、将来は全村民の手で、鎌倉時代のような市浦村にしたい、と思いました。

今、市浦村も過疎化が進んで、これをどうするか、なげ、このような歴史を見直さないのか、なぜ、村の発展のために協力しないのか、と思ひ、少し悲しくもいます。でもこのように考えている私も将来はこの村を出て行くかもしれない。もしそうなら、私は私なりに出来る範囲内の協力をしたいと思っています。

第二の鎌倉時代の市浦村を目標とし、全村民の協力の力が保たれるようになったら、どんなに素晴らしいものかと思っています。

## 村内企業の見直しを

### 大谷 絃子

(相内・45歳)

三十周年を迎えた市浦村を考えると、何の貢献もできずにきた事を申し訳なく思うばかりです。



この事を強く感じております。

これは又、村局の企画性の勝利だと思います。これからは、この若者達が(特に男性)活かされる職場の充実という課題が残されて

いると思います。豊かな村づくりを考え、この「男性型職場」はきけておれない問題ではないでしょうか？

そして又、この問題は、誰れかがやってくれるだろうという安易な考えが私達にある内解決できないのではないかと思われます。それは、他企業誘致と並行して、今村内にある企業を見直しする必要があるのではないのでしょうか。村内企業は、この市浦村の地域性を反映して成りたつており、この企業は発展こそ、村を豊かに導く鍵となるのではと考えるものです。

住民の一人一人に「企業を開発、発展させよう」という「覇気」の必要な時期、それが三十周年を迎えた私達の課題としていけたらと思います。住民自ら、経営者の立場で、あるいは消費者の立場で、ある時はセールズする立場になりきって、企業へのアイデアや情報等の提供し、企業の育成に心し、遅くとも、今ある企業は絶体になくしないという強いものの上になったあり方が必要ではないでしょうか。

## 確かな足跡が

### 三和 眞智子

(相内・31歳)



先日テレビで、「二十歳の男性と生まればかりの女の赤ちゃんは結婚できるか」という会話を聞いていました。

中には二十歳も年齢が違う夫婦もありますが、まず珍しいケースでしょう。いま二十歳も違う二人でも、更に時がたてば三十歳と十歳で、更に時がたてば二人は結婚できるようなことになるのです。もちろんこれは数字のレベルですが、数が多くなればその差は縮まるというのが面白い発想だと思いました。市浦村誕生から三十年たつたいまは、ごくわずかの差しかない訳ですが、まさに夢のごとです。

昭和三十年三月三十一日、西津幹路村、北津幹路村、内村、船元村の三村が合体合併して誕生した市浦村は、烈々たる気運と精神で村挙げて「住みよ村づくり」に努めてきたわけですが、その様変わりには目をみはるものを感じるのです。

いままら二十年前私は、村合併十周年記念誌に「学校給食を取り入れて」と奇矯したものでしたが、間もなく市浦中学校の統合校舎が完成するなど、その教育的成果には想像以上のものがありました。毎日の通学も梅雨時ともなればひどいもので、ドロドロ道を通学したものでした。あれから二十年、舗装道路にバス通学、不便を便利に変えて行くパワーは計り知れないものがあります。母としましては、保育所の一律化、小学校の統合、主婦として冠婚葬祭簡易化の徹底、ゴミ処理の問題など、気にかかるとも多々ありますが、生まれ育った村で、住みよ、幸せに暮らしたい、と願うのは私だけではないでしょう。村民一人一人のバイオニック精神へ期待して益々の発展を願いたいものです。

## 高齢化対策の先取りを

葛西チヨエ

(脳元・64歳)



出たら大変で、私も一度相内からトラックを頼んで金木の病院まで行ったことがありました。

診療所はあっても常駐する医師のない時代でした。

三十年前を顧みすと、食糧事情はやっと落ちつきをみせたものの、衣、住ではまだまだの感でした。交通事情などはない限り、五所川原の用件こともなし、やっとの思いで乗った満員バスは足の置き場所もなく、体だけが宙に浮いている状態でした。病人でも

も容赦なく、強風で日本海の荒波は民家を洗い、人間までが潮しょばいようなものでした。反面、夏などは錦石の敷きつめられた浜辺で子供たちがたわむれ、金色に輝く太陽が水平線の彼方に沈む時な

これからもお年寄りが生きがいを持ち、安心して暮らせる地域社会の建設を続けてほしいナア。



どは、脳元ならではの景観でした。いまでは防風林が成長したのか昔みないな強風もなし、立派な護岸は部落を守ってくれます。

十三湖には村民悲願の橋も架かり、子供たちは家から中学校、高校に通学できるようにもなりました。

若いお母さんたちは制服姿で会社へ通勤し、三十年前では想像もできなかったことです。

各地区には集会所が整備されていくが、特に脳元の老人生活がいセンターでは、陶芸に取り組む生きごととしたお年寄りの姿を見ることができま。

三十年と言えれば人間でも青年から壮年となり、社会人として派に活躍する年代です。

活気に満ちた村づくりも大いに期待できると思う反面、人口の高齢化も否めない事実です。一人暮らし老人や寝たきり老人が増えることから、ホームヘルパーの充実や在宅福祉の強化も必要となることでしょう。また、老人に生きがいを与えるため、趣味と実益を備えた生産施設の整備等押し寄せる高齢化社会への対応策を先取りすることが必要だと思ふこのころです。

## 郷土愛に

### 燃えよつ

工藤 章二郎  
(十三・71歳)



市浦村誕生三十周年、時の移り変わりの中で特筆される事業の一つに十三湖大橋の建設がある。旧十三橋に続く現十三湖大橋の建設には、二、三の政治家の名前も出ています。

が、架橋の発端たるそれまでの経緯を知る人は少ない。

今からさかのぼること三十五年、終戦後の混乱期から脱脚しようとする日本人が建設に向って立ち上がったときである。旧十三村の青年たちも立ち上がった。無気力な村勢の改革、計画的な十三村の建設等々。革新的な青年の力を結集しよう、十三青年党を誕生させた。副首はいまは亡き小倉博さん、副首は現村長の三重寅さんで、二十五人程の役員はいずれも二十代の青年

年集団で、その意気は天をつくものがあつた。私と豊島勝蔵先生は相談役となつていたが、村民大会では十三湖架橋が論議され、村民の支持を受けて活動が展開された。幾度となく県庁に陳情に出かけた。現在のようにはパスもなく、吹雪の岩木川の土手も金木まで歩くのが常であつた。お金がなく、大歓迎まで歩いた。県知事母の土産に持参した蛙が宿賃に変わったことや小泊に帰る乗船に便乗して大シケに遭つたことなど、思いはつきない。

特に忘れることのできないことの一つは、ある年の正月の元日の陳情である。県知事が年頭のあいさつに出かける矢先をとらそその陳情で、当時の大野連治県知事から「君たちの熱意はわかつている。年度予算六百五十万円を計上して架橋に取りかかることを約束する」と聞いたときの喜びようはいへんなものだつた。

県営の渡船を足がかりに政治家たちを動かすことになり旧十三橋が完成し、十三湖大橋と姿を変えたのである。

十三湖架橋の原動力は郷土愛に燃える青年たちの情熱であつたことを知っていただ

たい。

これら若者たちの集まる宿はきまつて私の家だつた。ドブコクを立ての架橋談議に夜を明かすことも多かった。明日食う米もなく、大きなお腹をかかえる女房に、ドブコクを土間にたたきつけられ逃げ出したことも、いまはなつかしい思い出になつて

昭和五十四年十月、思い出多い十三橋は、永久橋に架け替えられました。



# 開き直りの

## 精神で

中 畑 和 子

(昭和三十九年)



市浦村誕生三十周年おめでとうございます。

思えば二十年前、恐れ多くも牧場、火葬場の設置など申し出たものでした。間もなく二の願いは実現し、他の公共施設も次々建て

21世紀……。

そこにはどんな社会が待っているのだろうか。

ボクたちは、確かな未来にむかって市浦の新しい歴史をつくってきたい。



られ、村は確実に成長しました。しかしその後、出極き問題にオイルショックが追い打ちをかけ、二多聞にもれず市浦もその渦中に巻き込まれ、村誕生から三十年間に人口二千人程も減少する結果となりました。減少の理由はいろいろあると思いますが、やはり収入に乏しいが職場の無いことがクローズアップされる

と思います。昨年当村には、若い人向けの電子系工場が建設され、好成長を上げていくとのことですが、これと中学卒、高校生に大いに人気がある沢もなさそう、ましてや中高年層の職場は皆無である。まだまだ村外への人口流出は続くでしょう。例え人口減

少の一途をたどったとしても人口がゼロになることはあり

ますまい。ならば人口流出を嘆いたり、可能性のある頭脳を止め置くより、いっそのこと開き直った考え方に変わってみてはいかがでしょう。故郷を守る立場から市浦村を原点に掃って眺めてみれば、どこにも負けない広大な美しい大自然がそびえ立っているではありませんか。緑の牧場、田畑、海、湖、限りなく広がる繁華へのロマン等、今こそ観光と第一次産業に目を向けてみてはどうでしょう。

牧場の山小屋風レストランにはステーキを用意し、貸切りバスが往來できる宿泊施設、テニスコート、小公園では家族連れが花壇で日向ぼっこ、牛馬が群をなして牧草をついばんでいる。

一次産業に関しては、農協とのタイアップによる塩害、東風対策、水管理の整った畑作振興など、市浦で生産可能な収入を得られる農作物に取り組むべきです。

人生八十年のいま、命ある限り健康で美しく老いるためにも、生きがいを持ち少しでも収入につながるものがあればこのうねい喜びである。

# 自立への 発 想

奈 良 典 昭

(十三・三十五歳)



十代だった時、「希望」はまだ「可能性」でもあった。二十代になって、それは(かつて希望していたこと)と過去形に変わった。三十代のいまは(かつて望んでいた叶えられなかったこと)と、未だの過去完了形となっていました。

昭和四十年、十代だった私は市浦村合併十周年に臨んで、「十三湖干拓」と「十三橋永久橋架橋」と「道路舗装」を切望していた。テクノロジーの進展が幸であった。物質の充足が人々を幸せにした。(文明の発達)と(人類の幸福)が無限にまだ接近していた時代には、人々は文明の進展のみを夢想していた

よかった。だが、その両者の間隙が無限大に乖離しつつある現代にあっては、人々はとうとう位相に立てば未来を樂觀できるのだろうか。

あれから二十一年。私の青春における願望の不成就とは裏腹に、村はそれを確実に現実化した。だが、いま新たに(しらの未来)を口の端にのせる時、私には確固たるイメージが湧いてこない。

市浦村の一戸当りの所得額をあと百万円増やす施策には組みつつも、原子力関連施設の誘致による立村とか、観光立村という考えに対しては躊躇してしまふ。繁栄が幸福と同義とは思われない。中世、この地には日本とい

う孤立した島国感覚に促されることと広大な視野に立つて諸外国と交易し、かつ決して中央権力に従(ま)つた

ない思想を持った氏族がいた。時代風潮や既成概念を超える思想をこそ確立すべきであろう。

文明の流れの方向性を变えることは究極的には出来ないものであるとしても、好んで文明の繁栄を享受しようとは思わない。もし、現在の生活水準で決して優越とは言えないとしても相応の生活が可能であるとすれば、(しら)は好んで繁栄を望むよりは、(時代の逆証言者)として存在すればよいのではないかと

思う。自然と限りない未来性を秘めた市浦、これから進む道が、どんなに険しくても、一步一步確実に前進し、跨れる「ふるさと市浦」を築きたい。



# カメラで



# 記念行事



相内保育所の運動会



十三小黒カヌー大会で優勝



十二小全国大会  
兵会で優勝



昭元小学校の運動会



祭りに盛り上がる村民体育会



年々いっしょに歩ける村内の車道



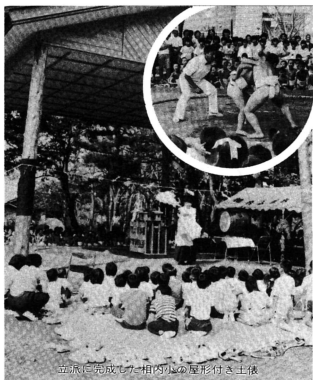
村内を回り歩く太刀振

## 30年の あゆみ

- 昭30・3 相内・昭元・十三合併、市浦村誕生。
- 昭32・8 新村建設50年計画策定
- 昭34・9 十三橋完成。
- 昭35・5 十三地区にも水田
- 明神沼周辺に市浦堂林業から試験田一反歩の貸付け。
- 昭36・6 国有林二百三十ヘクタール解放、畜産事業本格化。
- 昭38 相内開拓、十五ヘクタールの畑地転換。
- 昭39 十三湖干拓農地配分60町歩。
- 昭40・12 昭元公民館完成。
- 昭41・9 相内保育所完成。
- 昭42 原子力発電誘致について、村議会全員協議会で決定。
- 昭43・7 相内児童館完成。
- 昭43・7 市浦村農業協同組合事務所完成。
- 昭44・4 相内・昭元・十三中学校が統合発足。
- 昭45・8 市浦統合中学校校舎・寄宿舎(青雲寮)完成。
- 昭47・3 昭元小学校完成。
- 昭48・2 小治・市浦農協合併。
- 昭48・8 十三小学校完成
- 昭49・7 太田小水泳プール完成
- 昭50・3 津軽国定公園指定



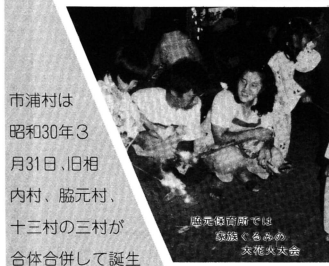
親子、村民体育大会のメインイベントだ



立派に完成した相内川の屋形付き土俵



鎌倉市の大運動会



歴史館留所では  
騒騒くあめめ  
交遊火文会



市浦中の運動会



お父ちゃんと一緒に  
相内保青隊の運動会

市浦村は昭和30年3月31日、旧相内村、脇元村、十三村の三村が合体合併して誕生し、今年には30周年という記念すべき年を迎えました。村では昭和60年を「市浦村誕生記念年」に位置づけ年間を通じてその意義と連帯を強調すると共に、村内各機関、団体で予定するすべての行事を「記念行事」として実施することに決めました。これまで実施してきた記念行事(事業)の主なものを写真で追ってみました。



老人クラブの  
サマール交遊



福徳地区と脇元小学校運動会

- 昭51・3 市浦村国保診療所完成、実収育成センター完成
- 昭52・8 基幹集落センター完成
- 昭53・8 サケマスふ化場、脇元小水泳プール完成
- 昭54・脇元保育所、十三小水泳プール完成、十三湖大橋開通(延長三四〇)
- 昭55・十三保育所完成
- 昭56・防災行政無線局開局、B&G財団市浦海洋センター(体育館)完成
- 昭57・市浦村コミュニティセンター、老人生きがいセンター完成
- 昭58・5 日本海中部地震、津波襲来、六名死亡
- 昭59・公設民営方式誘致企業、津軽テクノカ操業開始
- 十三湖中島遊歩道橋完成
- 昭60・11 市浦村誕生三十周年記念式典

# 道路交通法の

## 一部が変わりました

道路交通法の一部が改正され、主なものは九月一日から段階的に施行されました。

今回の改正は、ここ数年増え始めた死亡事故を減少させるとともに、「車社会」の新しい秩序づくりを目指すもので

す。主な改正点は次のとおりです。

### 段階的に施行される新しい道交法

今回の改正の主なものは9月1日から施行されましたが、ミニバイクの右折方法やヘルメットの着用義務は遅れて施行されます。

施行日は次のとおりです。

#### 改正道路交通法の主なものの施行期日

改正内容	施行日
▶シートベルトの着用義務 ▶初心者ライダーの2人乗り禁止 ▶空ぶかし等の禁止	昭和60年 9月1日
▶ミニバイクの交差点における右折方法の変更	昭和61年 1月1日
▶初心者ドライバーのための講習 ▶ミニバイクライダーのヘルメット着用義務	昭和61年 7月5日

シートベルトの着用が義務付けられました

9月1日施行

すべての道路で、ドライバーはシートベルトの着用が義務付けられました。また、ドライバーは、助手席にすわる人にもシートベルトを着用させてからでないと、車を運転

してはいけません。同時に、ドライバーは、後部座席にすわる人に対してもしートベルトを着用させるよう努めなければなりません。

（違反した場合の措置）  
高速道路1ドライバー本人が着用していない場合に行政処分点数一点

一般道路1回回の法改正の趣旨がドライバーに徹底し、シートベルト着用意識が向上した段階で、行政処分点数を付することを検討することとなっています。

（特例）

次に挙げるような人は、着用義務を免除されます。  
▼乗り降りひんばん郵便集配車などのドライバー  
▼妊娠や負傷している人など、療養上または健康の保持上シートベルトをすることは適当でないドライバー  
▼体が非常に大きい、あるいは小さいので適切にシートベルトを装着できないドライバー  
▼バックの運転をするときの

ドライバー  
▽その他、パレードなど複数の警察用車両で護衛等々されている車のドライバーや公職選挙法上の選挙用自動車のドライバー（候補者や運動員に限る）などです。

なお、助手席同乗者についても、ほぼドライバーの場合に準じて免除が認められます。

空ぶかし等の行為が禁止されます

9月1日施行

ドライバーやライダーは、正当な理由がなく、著しく人に迷惑になる騒音を生じさせる方法で急発進、急加速、空ぶかしをしてはならないことになりました。

（違反した場合の措置）  
行政処分点数一点

#### 初心者ライダーの2人乗り禁止

9月1日施行

自動二輪車の免許を取って一年未満の初心者ライダーは2人乗りをしてはいけませんことになりました。

昭和五十八年中の2人乗り運転中の死亡事故をみると、約七割が免許取得一年未満の初心者ライダーで占められています。

（違反した場合の措置）  
行政処分点数一点。反則金四千円。罰則三万円以下の罰金。

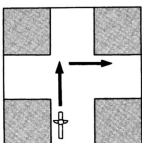
（原動機付自転車）

ミニバイクの右折方法が変わります

昭和61年1月1日施行

次に挙げる道路では、図のように曲がらなければなりません。

①標識で右折方法が指定されている交差点  
②片側三車線以上ある道路で信号機のある交差点（標識等で除外される場合もある）  
つまり、まず左端を走り交差点の端を直進し、そこで車体の向きを変え、進む方向の信号に従って直進することになります。



（違反した場合の措置）

行政処分点数一点、反則金二千円。罰則一万円以下の罰金または料科

#### 初心者ドライバーのための講習

昭和61年1月1日施行

免許取得後一年以内に行政処分点数の合計が四点が五点になったドライバーは、公安委員会が行う「初心運転者講習」を受けなければならなりません。

初心者のドライバーは交通社会に慣れないので、違反をしたり、事故を起こす率が高くなります。そこで、免許停止になる前に、もう一度安全に関する講習を受けてもらおうというものです。

（ヘルメット着用がミニバイクのライダーにも義務付け

昭和61年7月5日施行

ミニバイクを運転する人は必ずヘルメットをかぶらなければなりません。


施行は来年の七月五日からです。施行前でもヘルメットをかぶり身の安全をはかりましょう。

（違反した場合の措置）  
行政処分点数一点

情報をお寄せください

# あしらせ

役場の電話は62-2111




家庭は  
非行の  
防波堤

11月は「全国青少年  
健全育成強調月間」

## 木材加工の 技能研修員を募集

村で計画している木材工芸センターは、来年9月完成する予定ですが、同施設、設備は広く村民に開放することになっています。

木材工芸センターの効率的な運用をはかるため、村では木材加工の技能者を派遣養成します。

木材加工の技術を習得したい方は、下記により申し込みください。

### 記

- ◇養成人員 3人
- ◇研修場所 青森総合高等職業訓練校
- ◇研修期間 昭和61年1月16日から61年3月31日まで
- ◇申込み締切日 昭和60年11月15日
- ◇研修員には、市浦村ふるさと定住対策条例に基づき、研修奨励金(1日当たり1,500円)と往復の旅費を支給します。
- ◇詳しいことは、市浦村役場企画財政課(電話62-2111)へおたずねください。

## 自衛官2等陸・海・空士募集中

昭和60年度第3次2等陸士・2等海士及び2等空士を募集しています。

- 応募資格 18歳以上25歳未満の者
- 募集期間 10月1日から12月31日まで
- 申込先 五所川原市字末広町29の4

自衛隊地方連絡部五所川原募集事務所(電話35-2305番)又は役場総務課へ

- 採用試験 募集期間中随時行います。

## 精神衛生講座の開催

一すこやかな老後のために一  
ボケはある意味では、その人の生きざまともいわれています。あすはわが身にもなりかねません。ボケを正しく理解し、予防のための過ごし方を学びましょう。ボケ老人をかかえている家族の方は、一緒に悩むについて話し合い、対策について考えてみましょう。テーマ「精神衛生対策について」講師・五所川原保健所長

櫻庭廣次氏  
「ボケ予防のために——すこやかな老後を過ごすには」  
講師・西北中央病院

- 副院長 村本幸栄氏
- とき 昭和60年11月19日(火) 13時—15時
- ところ 五所川原保健所
- 対象 一般住民
- 受講料は無料です。おさそい合わせの上、多数おいってください。
- お問い合わせは、五所川原保健所(電話34-2108)又は市浦村役場民生課(62-2111)

## リサイクルバザーを開催

—11月3日海洋センター—

市浦村連合婦人会では「あすを拓く、ふるさとまつり」に協賛して、不用品即売リサイクルバザーを開きます。

この催しは、ことしからスタートした「かしこい生活運動」の年を記念し、ものを大切に「再利用慈善市」として開くもので、初めての試み。

家庭に眠っている不用品を持ち寄り、資源のリサイクルをはかるものとするものです。

## 交通安全カラオケ大会

11月4日 18:30~20:00  
(コミュニティセンター大ホール)

市浦村交通安全協会青年部では、「交通安全カラオケ大会」を開く。参加者を20名以内に限定し、使用するテープは参加者の持ち込みとしている。

市浦村はいま、交通死亡事故ゼロの記録800日(11月1日)を達成。さらに1,000日、1,500日達成へむかって安全運転に心がけたいものです。

## 物産展

(コミュニティセンター前広場)

物産展には、地元産地直送で土の香りのする新鮮な野菜、市浦牛の銘柄を確立しつつある牛肉などを即売するほか、地場産のヒバ材等を加工した木材工芸品の展示即売コーナーを設けて、皆さんのおいでを待っています。

- 11月3日 野菜の展示即売(市浦農協・同婦人会)
- 11月4日 市浦牛の牛肉を即売(市浦村畜産振興公社)
- 11月2日—4日 木工芸品の展示即売(市浦工芸・高橋クラフト)

参加して  
みませんか  
電報電話局の  
一般公開

五所川原電報電話局では、十一月三日、文化の日により五所川原市民総合文化祭の一環として、同局及び五所川原電報中継所の施設見学会を実施します。

電報電話局の施設、電話のつながるしくみを見学してみませんか。

五所川原市民総合文化祭協賛

# 電話局一般公開

NTT 電話のつながるしくみ  
みてみませんか

11月4日(月)  
午前10時から午後3時まで

主催 五所川原電報電話局・五所川原電話中継所  
後援 五所川原電信電話ユーザ協会

編集室から  
編集担当者の都合により、「広報しらら」が、六月号から九月号まで発行できませんでした。深くお詫び申し上げます。

—KK—





お誕生



三上 真之介(相内) 郁夫  
工藤 祐貴(桂川) 仁二  
米谷 五月(相内) 良二  
三浦 瑞絵(相内) 美智男  
奈良 香織(太田) 幸一



▶12◀

今回引用させていただいたことは、私達が常日頃相談され、また聞かされていることです。悩んでいる人の参考とさせていただきます。また聞かされていることです。悩んでいる人の参考とさせていただきます。また聞かされていることです。悩んでいる人の参考とさせていただきます。

健康相談  
ザ・ケース

した。五十歳の彼女は自分が自覚していなかったしこりを指摘されびっくり、すぐ精

乳ガン検診

意外に多いシコリ

密検査にやかまされた。結果がでるまで二週間を要すること、ほんとうの病人の顔を、悩んでいる彼女をみて。大丈夫だからと元気づけているこちらが不安になつて

三和 健(磯松) 明彦  
高木 愛架(脇元) 洗二  
佐藤 和(脇元) 貞悦  
熊澤 公仁(黒石) 広  
亀田 克実(十三) 克彦  
秋田 裕一(相内) 幸彦  
秋田 舞衣(桂川) 浩  
相川 歩美(十三) 武  
三和 秀正(脇元) 吉光  
高田 恵(十三) 正嗣  
萬西 文子(脇元) 芳起  
三和 篤史(相内) 勉  
伊藤 翔三(相内) 千太郎  
伊田 谷 幸也(相内) 重春  
澤田 幸広(相内) 美照  
若山 宗裕(十三) 孝太郎  
丸山 聡美(脇元) 敏春  
中畑 早景(脇元) 藤義  
菅原 真理子(岩手) 利耕  
小山 倫広(十和田) 勝男  
鎌田 朋花(相内) 和廣  
山本 太一(十三) 三郎  
奈良 卓弥(太田) 豊  
松橋 要(車力) 照彦  
松橋 渉(十三) 誠  
奈良 真寿美(太田) 雄二  
秋田 浩太(磯松) 義治  
和田 磨澄美(相内) 英恵  
相坂 麻衣(十三) 恒夫  
豊島 裕介(十三) 繁信  
松田 理沙(十三) 裕之  
工藤 高浩(相内) 高次  
吉田 峰敏(相内) 均  
丸山 祐理子(太田) 讓

ご結婚



岡本 大門(相内) 茂樹  
三浦 由佳(相内) 春夫  
三和 翔平(相内) 清規  
油谷 恵(稲垣)  
成田 明美(十三)  
山田 徹(相内)  
中野 孝子(脇元)  
三上 徹史(脇元)  
白鳥 真智子(青森)  
奈良 雄喜(太田)  
中野 律子(岩手)

三つには、ガン以外の婦人科の病気がある場合、いずれにしても検査を受けないとわきりしたことはわからないという受診して頂くことをすすめました。

担当保健師  
野宮 富子

おめでとう

東山 綾子(中里)  
須郷 登美子(青森)  
山田 登志夫(脇元)  
森田 めぐみ(鹿兒島)  
相坂 恒夫(十三)  
松木 久子(木造)  
亀井 博之(十三)  
工藤 サチ子(三梨)  
赤石 江里子(相内)  
佐藤 晃一(相内)  
上野 美幸(十三)  
伊南 利雨子(磯松)  
澤田 日出美(相内)  
北川 由美(相内)  
三浦 川良(五所川原)  
大性 文子(相内)  
新岡 伸彦(木造)  
小寺 英臣(脇元)  
木村 夏子(太田)  
山田 兵吾(相内)  
三和 康博(磯松)  
木津 康博(千葉)  
木村 恵利子(八戸)  
松田 裕之(十三)  
伊南 勝則(磯松)  
中野 良子(横浜)  
工藤 智代美(脇元)  
藤浦 昭子(脇元)  
藤田 法雄(磯松)  
池田 彰(五所川原)  
小倉 典子(十三)  
中島 明雄(十三)  
松橋 竹子(車力)  
松本 俊岐(車)  
安田 尚(十三)  
山口 浩紀(平館)  
山口 美子(脇元)  
齊藤 道紀(神奈川)  
龜田 綾子(十三)  
藤田 壽生(三和)  
藤田 裕津子(重松)  
葛西 寛(脇元)  
菊池 美知代(岩手)  
岡田 博(青森)  
池田 中富子(太田)